

## 北琉球奄美大島方言における尊敬接辞-timor-の地域差と変化について

重野裕美（日本学術振興会／広島大学）shigenohrm.58@gmail.com

白田理人（広島大学）shiratarihito@gmail.com

## 要旨

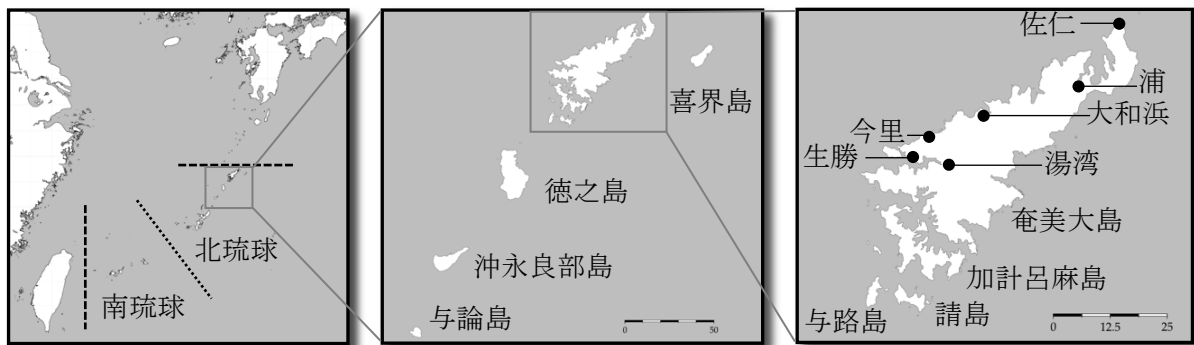
奄美大島の一部地域の方言における尊敬接辞-timor-は、「(～て) いらっしゃる」相当の、継続+尊敬の標識に由来し、基本的に、継続の意味を伴わない単なる尊敬標識として用いられている。本発表は、宇検村生勝方言及び大和村今里方言のデータから、尊敬接辞-timor-の意味的／形態的特徴の地域差を示し、-timor-に生じた変化の過程を明らかにするものである。-timor-の通時的変化において、生勝方言の段階は、今里方言の段階の前の段階として位置づけうる。生勝方言では、一部の動詞に用いられる場合において、-timor-の継続の意味機能が保持されている。また、由来となる「居る」相当の語彙的尊敬動詞に特徴的な過去形が、形容詞述語及び名詞述語において保持されている。一方、今里方言は、継続の意味の希薄化と、尊敬動詞として一般的な過去形への取り替えの変化が完了している。

## 1. はじめに

奄美大島方言は、鹿児島県の奄美群島のうち、奄美大島と隣接する加計呂麻島・請島・与路島で話されている。また、琉球諸語のうち北琉球諸語に属する言語変種である（cf. 図1）。

本発表は、発表者が収集した宇検村生勝（いけがち）集落及び大和村今里（いまごと）集落の方言（以降それぞれ生勝方言／今里方言）のデータを扱い、尊敬接辞-timor-の意味的／形態的特徴の地域差を示し、これに基づき、-timor-に生じた通時的変化を明らかにするものである。

生勝方言／今里方言のデータは、それぞれ、生勝集落出身・奄美市内在住の1954年生まれ的女性1名、今里集落出身・1934年生まれ的女性1名を対象として、2022年9月・2023年9月・2024年3月に質問調査で得たもの（これ以外に、オンラインによる確認調査で得たものを含む）である。用例の表記には小川（2015）で提案されたアルファベット表記法を用いる。

図1 琉球列島／奄美群島／奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島<sup>1</sup>

## 2. 背景と目的

## 2.1. 背景①:「居る」相当の語彙的尊敬動詞の補助動詞化／接辞化

北琉球奄美大島方言では、一般的に「居る」（及び「行く／来る」）相当の語彙的尊敬動詞 imor-（方言によっては umo(o)r-, omo(o)r-, m'or-[m'or-], oor-）が、動詞の継起形-ti（異形態-ti, -di, -chi[tci], -cchi[ttci], -ji[zi], -shi[ci]等、日本語共通語のテ形相当）に後続し、「(～て) いらっしゃる」相当の、継続と尊敬の両方を標示する標識として用いられる（長田ほか1980, 国立国語研究所2006: 第288図, 重野2010,

<sup>1</sup> 国土地理院発行のデータから Thomas Pellard 氏（CRLAO）が作成した地図を編集して用いている。

2011, 2013, 2017, 2018, 重野・白田 2018)。大和村大和浜方言話者の内省に基づく辞書である長田ほか(1980: 502-503)には、=imoruri という項目があり、「…していらっしゃる。=uri, すなわち動作が持続していることの尊敬体 ?imoruri 《いらっしゃる》の転用。」と説明されている。重野(2018)は、龍郷町浦方言について、「居る」(及び「行く/来る」)語彙的尊敬動詞 m'or-が「～(て)いる」(及び「～(て)いく/～(て)くる」)相当の尊敬補助動詞となった mor-を報告している (cf. (1), (2))。

- (1) shenshei=ya n'ama yaa=nanti m'o-n=chi=doo. (浦方言, 重野 2018:79)  
先生=TOP 今 家=LOC 居る.HON-NPST=REP=SFP  
「先生は今家にいらっしゃるそうだよ。」
- (2) shenshei=ya n'ama umi=nanti oo-ji mo-t=too. (浦方言, 重野 2018:82, グロス一部改変)  
先生=TOP 今 海=LOC 泳ぐ-SEQ 居る(AUX).HON-NPST=SFP  
「先生は今海で泳いでいらっしゃるよ。」

奄美大島方言のうち、宇検村及び大和村の(一部地域の)方言では、「継起形+尊敬補助動詞」に由来すると考えられる形式が、継続の意味を伴わない単なる尊敬標識として用いられている(Niinaga 2014, 重野 2017)。Niinaga (2014)は、宇検村湯湾方言について、尊敬標識として、継起形に続く補助動詞 moor-を報告している (cf. (3))。重野(2017: 164)は、大和村今里方言について、「語彙的尊敬動詞由来の補助動詞に対応する形式が、アスペクト標示の機能を失い、継起形接辞と融合して尊敬標示(-timor-)として」用いられているとし、「尊敬と動作の進行/結果状態の継続の両方を標示する場合は、動詞語幹に尊敬標示-timor-と継続接辞-chu-の両方が後接する」と述べている (cf. (4), (5))。また、重野(2017)は、尊敬接辞-timor-が、動詞述語だけでなく形容詞述語/名詞述語にも用いられることを報告している (cf. (6), (7))。

- (3) minna |gakkoo| izjacji moocjəppajaa. (湯湾方言, Niinaga 2014: 281)  
minna gakkoo izj-as-ti moor-təər-ba=jaa  
everybody school go.out-CAUS-SEQ HON-RSL-CSL=SOL  
'(Your great-grandparents) had all of (their children) go out [i.e. graduate from] the school.'
- (4) shenshee=ga hon yu-dimor-u=ddoo. (今里方言, 重野 2017: 164)  
先生=NOM 本 読む-HON-NPST=SFP  
「先生が本をお読みになるよ。」
- (5) shenshee=ga hon yu-dimo-chu=ddoo. (今里方言, 重野 2017: 165)  
先生=NOM 本 読む-HON-PROG-NPST=SFP  
「先生が本を読んでいらっしゃるよ。」
- (6) shenshee nyan=na shee=nu taa-sa-ttimor-u=yaa. (今里方言, 重野 2017: 159)  
先生 2SG.HON=TOP 背=NOM 高い-ADJ-HON-NPST=SFP  
「先生、あなたは背が高くていらっしゃいますね。」
- (7) kun c'huu=ya gakkoo=nu shenshee a-timor-u=ddoo. (今里方言, 重野 2017: 160)  
この人=TOP 学校=GEN 先生 COP-HON-NPST=SFP  
「この方は学校の先生であられるよ。」

## 2.2. 背景②:「居る」相当の語彙的尊敬動詞の過去形の特徴

奄美大島方言を含め、北琉球語群において、語彙的尊敬動詞のうち、「居る」相当の語彙的尊敬動詞と、「来る」(及び「行く」)相当の語彙的尊敬動詞は、語根を共有しつつも、(基本的な)過去形において異なる形式をとることが報告されている。先行研究に基づき、「来る」/「居る」相当の語彙的尊敬動詞の(基本的な)過去形を表1に示す。表1の表記は、本発表での表記法に統一している。後続する助詞によって語形が変わる場合は、それぞれ示している。

表1 「居る」／「来る」相当の語彙的尊敬動詞の過去形

島名	地点名	語彙的尊敬動詞過去形		出典
		「居た」相当	「来た」相当	
奄美大島	佐仁	oo-ti / oo-ta	oo-shi / oo-sha	重野・白田 (2018)
奄美大島	浦	m'o-ti / m'o-tan	m'o-shi / m'o-shan	重野 (2018)
奄美大島	今里	imor-uti / imor-utan	imo-chi / imo-chan	重野 (2017)
沖永良部島	正名	m'eetamu	m'oochamu	Van der Lubbe (2016)
沖縄島	首里	mensheetan	mensoochan	西岡 (2002)

本発表が対象とする今里方言において、その他の語彙的尊敬動詞の基本的な過去形は、「来る」同様、*-chi/-chan* という形式をとることが報告されている (e.g. *imo-chi / imo-chan* 「仰った」(「言った」相当), *misho-chi / misho-chan* 「召し上がった」(「飲んだ／食べた」相当), *yasimo-chi / yassimo-chan* 「お休みになった」(「寝た」相当), 重野 2017 参照)。したがって、語彙的尊敬動詞のうち、「居る」のみが特殊な *-uti / -utan* という過去形をとっているといえる (なお、以上のことは生勝方言にも同様に当てはまる)。

### 2.3. 目的

本発表は、生勝方言と今里方言のデータから、尊敬接辞 *-timor-* の意味的／形態的特徴の地域差を示し、これに基づき、*-timor-* に生じた通時的变化を明らかにすることを目的とする。変化の過程を捉えるうえで、特に以下2点に着目する。

- ① 尊敬標識 *-timor-* において、継続の意味の希薄化はどの程度進んでいるのか。
- ② 尊敬標識 *-timor-* は「居る」相当の語彙的尊敬動詞の過去形の形態的特徴を保持しているか。

## 3. 尊敬接辞 *-timor-* の意味的／形態的特徴の地域差と変化

### 3.1. 基本的な形態的特徴

*-timor-* の基本的な形態的特徴として、動詞継起形＋補助動詞の縮約形との違い、及び、動詞におけるその他の派生接辞との共起について論じる。データは、生勝方言のものを示すが、今里方言においても同様の例を確認している。

*-timor-* は、通時的には動詞継起形＋尊敬補助動詞の縮約形であるが、共時的には、基本的にそう見ることはできない。動詞継起形＋補助動詞の縮約形の場合、動詞句の取り立てにおいて、動詞継起形に取り立て助詞が後接し、補助動詞が動詞継起形と分かれて現れる (cf. (8))。一方、*-timor-* の場合は、基本的に、動詞不定形に取り立て助詞が後続し、「する」相当の軽動詞に尊敬が標示されるため、補助動詞と動詞継起形が分かれて現れることはない (cf. (9))。このため、本発表では、基本的に、共時的には *-timor-* を動詞継起形＋尊敬補助動詞の縮約形ではなく、一つの接辞と見なしている。

動詞における他の派生接辞との共起として、使役接辞との共起を取り上げる。*-timor-* は使役接辞に後接しうる (cf. (10)a) が、使役接辞が *-timor-* に後接することはない (cf. (10)b)。語彙的尊敬動詞語根の場合は、使役接辞が後続しうる (cf. (10)c) ので、*-timor-* と使役接辞の順序の制限は、意味的な制限ではなく、形態的な制限と考えられる。

- (8) ak'ira = ya    nama shinbum = ba { mu-cchu-siga        / mu-cchi = ya    wuu-siga        }  
 アキラ = TOP 今    新聞 = ACC    持つ-PROG.NPST-AC    持つ-SEQ = TOP    居る(AUX).NPST-AC  
 yu-di = ya        wur-an = doo.    (生勝方言)  
 読む-SEQ = TOP    居る(AUX)-NEG.NPST = SFP  
 「アキラは今新聞を {持っているが／持っはいるが} 読んではいないよ。」

- (9) ak'ira+wuji=ya shinbum=ba { kau-timo-cha-siga / ka-i=ya shiimo-cha-siga }  
 アキラ+おじ=TOP 新聞=ACC 買う-HON-PST-AC 買う-INF=TOP する(LV).HON-PST-AC  
 nama yu-dimo-chur-an=chi=doo. (生勝方言)  
 今 読む-HON-PROG-NEG.NPST=REP=SFP

「アキラおじさんは新聞を {お買いになったが/お買いにはなったが}  
 まだ読んでいらっしやらないそうだよ。」

- (10) a. <主語=使役主=聞き手>: 目上, <間接目的語=被使役主>: 目下の場合 (生勝方言)  
 un sookë=ya ak'ira=n t'uk'ur-a-chimo-chi=na?  
 その カゴ=TOP アキラ=DAT 作る-CAUS-HON-PST=YNQ  
 「そのカゴはアキラにお作らせになったのですか？」
- b. <主語=使役主=聞き手>: 目下, <間接目的語=被使役主>: 目上の場合 (生勝方言)  
 un sookë=ya ak'ira+wuji=n { t'uk'ur-a-chi=na? / \*t'uk'u-timor-a-chi=na? }  
 その カゴ=TOP アキラ+おじ=DAT 作る-CAUS-PST=YNQ 作る-HON-CAUS-PST=YNQ  
 「そのカゴはアキラおじさんに作らせたの？」
- c. <主語=使役主=聞き手>: 目下, <間接目的語=被使役主>: 目上の場合 (生勝方言)  
 ak'ira+wuji=n asaban mishor-a-chi=na?  
 アキラ+おじ=DAT 朝食 食べる.HON-CAUS-PST=YNQ  
 「アキラおじさんに朝食を召し上がらせたの？」

### 3.2. 継続の意味機能の有無

まず、生勝方言について見る。-timor-には基本的に継続の意味機能は含まれず、継続は-tur- (異形態-chur-) を後接させることで標示する (cf. (11), (12))。しかしながら、「知る」など、継続形の頻度が高いと考えられる一部の動詞に用いられる場合、尊敬と継続の意味機能を兼ねることがある (cf. (13))。なお、継続の標示がないのは、動詞語根に継続の意味が含まれているためである、と考えることはできない。なぜなら、非尊敬の場合には、継続の標示が要求されるためである (cf. (14))。

- (11) nan=daka shimbun yu-dimor-un=nya? (生勝方言)  
 2SG.HON=ADD 新聞 読む-HON-NPST=YNQ  
 「(新聞を手を持ちながら) あなたも新聞をお読みになりますか？」
- (12) nan=daka nama shimbun yu-dimo-chu-n=nya? (生勝方言)  
 2SG.HON=ADD 今 新聞 読む-HON-PROG-NPST=YNQ  
 「(電話で) あなたも今新聞を読んでいらっしやいますか？」
- (13) nam=mya ak'ira=ba shi-cchimor-un=nya? (生勝方言)  
 2SG.HON=TOP アキラ=ACC 知る-HON.PROG-NPST=YNQ  
 「あなたはアキラをご存知ですか？」
- (14) ura=ya ak'ira=ba { shi-cchu-n=nya? / #shir-un=nya? } (生勝方言)  
 2SG=TOP アキラ=ACC 知る-PROG-NPST=YNQ 知る-NPST=YNQ  
 「お前はアキラを知っているか？」

なお、尊敬+継続の意味を持つ述語において、動詞句を取り立てる場合は、動詞句に取り立て助詞が後接し、尊敬+継続の意味を担う補助動詞が、動詞継起形と分かれて現れる。このため、-timor-が動詞「知る」等に用いられ、尊敬だけでなく継続の意味も持つ場合は、共時的に、接辞ではなく、動詞継起形と補助動詞の縮約形として分析できる (cf. (15))。

- (15) ak'ira+wuji=ya un kutu=ba { shi-cchimor-un=ban /  
 アキラ+おじ=TOP その こと=ACC 知る-PROG.HON-NPST=ACC  
 shi-cchi=ya imor-un=ban } yooriggwa shiimor-un=chi. (生勝方言)  
 知る-SEQ=TOP 居る(AUX).HON-NPST=ACC 沈黙 する.HON.NPST=REP  
 「アキラおじさんはそのことを {知っていらっしゃるが/  
 知ってはいらっしゃるが} 黙っていらっしゃるそうだ。」

次に、今里方言について見ると、重野 (2017) の指摘と同様、-timor-に継続の意味機能は含まれず (cf. (16)), 継続は-tur- (異形態-chur-) を後接させることで標示する (cf. (17))。これは、動詞「知る」等、生勝方言で-timor-に継続の意味機能が含まれる場合であっても変わらない (cf. (18))。

- (16) nyan=daka shimbun yu-dimor-un=nya? (今里方言)  
 2SG.HON=ADD 新聞 読む-HON-NPST=YNQ  
 「(新聞を手に持ちながら) あなたも新聞をお読みにになりますか？」
- (17) nyan=daka nama shimbun yu-dimo-chu-n=nya? (今里方言)  
 2SG.HON=ADD 今 新聞 読む-HON-PROG-NPST=YNQ  
 「(電話で) あなたも今新聞を読んでいらっしゃいますか？」
- (18) nyan=na ak'ira shi-cchimo-chun=nya? (今里方言)  
 2SG.HON=TOP アキラ 知る-HON-PROG-NPST=YNQ  
 「あなたはアキラをご存知ですか？」

参考として、表 2 に、調査した動詞ごとに、生勝方言／今里方言における尊敬継続形を示す。すべて、非尊敬の場合は継続の標示が求められることを確認しており、継続形も併せて表に挙げている。生勝方言と今里方言で語根及び継続形が異なる場合は、この順に併記している。生勝方言で、-timor-に継続の意味機能が含まれる場合は網掛けで示している。便宜上、語形は-(u)n で終わる非過去形に統一している。

表 2 「居る」／「来る」相当の語彙的尊敬動詞の過去形

意味	動词语根	継続形 (非尊敬)	尊敬継続形	
			生勝方言	今里方言
読む	yum-	yu-du-n	yu-dimo-chu-n	yu-dimo-chu-n
走る	hashir-	hashi-chu-n	hashi-chimo-chu-n	hashi-chimo-chu-n
座る	yir-	yi-chu-n	yi-chimo-chu-n	yi-chimo-chu-n
着る	kir-	ki-chu-n	ki-chimo-chu-n	ki-chimo-chu-n
入る	ir-	i-cchu-n	i-cchimo-chu-n	i-cchimo-chu-n
覚える	oboe- / ubi-	oboe-tu-n / ubi-tu-n	oboe-timo-chu-n	ubi-timo-chu-n
太る	k'wëë-	k'wëë-tu-n	k'wëë-timo-chu-n	k'wëë-timo-chu-n
知る	shir-	shi-cchu-n	shi-cchimor-un	shi-cchimo-chu-n
似る	nir-	ni-chu-n	ni-chimor-un	ni-chimo-chu-n
待つ	mat-	ma-cchu-n	ma-cchimor-un	ma-cchimo-chu-n
持つ	mut-	mu-cchu-n	mu-cchimor-un	mu-cchimo-chu-n

### 3.3. 過去形

まず、生勝方言について見る。-timor-が動詞に用いられる場合、尊敬動詞として一般的な過去形(-chi)をとる (cf. (19))。一方、形容詞やコピュラに用いられる場合は、「居る」相当の尊敬動詞と同じ過去形(-uti)をとる (cf. (20), (21))。

- (19) nam=mya yubi shimbun yu-dimo-chi=na? (生勝方言)  
2SG.HON=TOP 昨夜 新聞 読む-HON-PST=YNQ  
「あなたは昨夜新聞をお読みにになりましたか？」
- (20) nam=mya k'inyu=ya isoga-sha-timor-uti=na? (生勝方言)  
2SG.HON=TOP 昨日=TOP 忙しい-ADJ-HON-PST=YNQ  
「あなたは昨日はお忙しかったですか？」
- (21) nam=mya mukashi ishasama a-timor-uti? (生勝方言)  
2SG.HON=TOP 昔 医者様 COP-HON-PST  
「あなたは昔お医者様でいらっしゃいましたか？」

次に、今里方言についてみると、-timor-は動詞の場合も形容詞／コピュラの場合も同様に、尊敬動詞として一般的な過去形(-chi)をとる (cf. (22), (23), (24))。

- (22) nyan=na yubi=ya shimbun yu-dimo-chi=na? (今里方言)  
2SG.HON=TOP 昨夜=TOP 新聞 読む-HON-PST=YNQ  
「あなたは昨夜は新聞をお読みにになりましたか？」
- (23) nyan=na k'inyu=ya ishoga-sa-timo-chi=na? (今里方言)  
2SG.HON=TOP 昨日=TOP 忙しい-ADJ-HON-PST=YNQ  
「あなたは昨日はお忙しかったですか？」
- (24) nyan=na mukashi=ya ishasama=du a-timo-chi=na? (今里方言)  
2SG.HON=TOP 昔=TOP 医者様=FOC COP-HON-PST=YNQ  
「あなたは昔お医者様でいらっしゃいましたか？」

### 3.4. 意味的／形態的特徴地域差から推定される通時的変化

生勝方言と今里方言における-timor-の意味的／形態的特徴の地域差を踏まえ、生勝方言の段階が、今里方言の段階の前に位置づけられると仮定して、通時的変化を推定する。-timor-は、以下の(A)(B)(C)の点で変化を起こしたと考えられる。

- (A) 継続の意味の希薄化
- (B) 動詞から形容詞／コピュラへの使用範囲の拡大
- (C) 「居る」相当の尊敬動詞に特徴的な過去形から、尊敬動詞として一般的な過去形への取り替え  
(動詞→形容詞／コピュラの順)

以上の点において、通時的変化における、生勝方言と今里方言のそれぞれの段階の位置づけを行う。生勝方言では、(A)の変化が完了しておらず、一部の動詞に用いられる場合において、-timor-の継続の意味機能が保持されている。また、(B)の変化は起こっているものの、(C)が動詞のみに適用され、形容詞／コピュラには適用されておらず、特殊な過去形が保持されている。一方、今里方言は、(A)・(B)・(C)が完了した段階といえる。

#### 4. まとめと課題

本発表では、尊敬接辞-timor-の意味的／形態的特徴の地域差を示し、これに基づき、-timor-に生じた通時的変化を明らかにした。生勝方言が、継続の意味機能、及び、「居る」相当の語彙的尊敬動詞の特殊な過去形を一部保持しているのに対し、今里方言は、これらを保持していないことを示し、生勝方言の段階を今里方言の段階の前に位置づけて、通時的変化の過程を論じた。

残された課題として、まず、生勝方言において、-timor-が、由来となった尊敬動詞の特徴を保持している範囲が、どのように決まっているか、という点が挙げられる。継続の意味機能の保持については、継続形の頻度が高いと考えられる動詞に見られる、と述べたが、実際の頻度の計測等を行っているわけではなく、他の一般化の可能性も含めて、検討の余地がある。特殊な過去形の保持については、形容詞述語及び名詞述語に見られ、由来となった「居る」相当の尊敬動詞と「状態性」の点で共通していると考えられる。Van der Lubbe (2021) は、沖縄語中南部方言における、状態述語の過去形の特殊性を指摘しており、本発表で報告した現象との関連を検討すべきである。

また、奄美大島方言では、一般的に、尊敬接辞として-i(n)shor-という形式が用いられており(重野 2010, 2011, 2013, 2018, 重野・白田 2018), -timor-の発達と、-i(n)shor-の衰退の関係についても調査分析が必要である。

#### グロス略号

2SG: second person singular, AC: adversative construction, ACC: accusative, ADD: additive, ADJ: adjective, AUX: auxiliary, CAUS: causative, COP: copula, CSL: causal, DAT: dative, FOC: focus, GEN: genitive, HON: honorific, INF: infinitive, LOC: locative, LV: light verb, NEG: negative, NOM: nominative, NPST: non-past, PROG: progressive, PST: past, REP: reportative, RSL: resultative, SEQ: sequential, SFP: sentence final particle, SOL: solidarity, TOP: topic, YNQ: Yes/No question

#### 謝辞

本研究に関わる調査にご協力いただいた鈴木りり子氏・安原ナスエ氏に感謝申し上げます。本研究は国立国語研究所基幹型共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」及び日本学術振興会科研費 23KJ1654, 22H00007 の研究成果を報告したものである。本研究は 2023 年 10 月 7 日の沖縄言語研究センター定例研究会における発表、及び、2024 年 3 月 28 日の第 1 回広島言語研究集会における発表の内容に、データの追加、分析の再検討を行ったものを含んでいる。

#### 参考文献

- 国立国語研究所 (2006) 『方言文法全国地図 第 6 集—表現法編 3 (待遇)—』  
<https://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/gaj-pdf/gaj-volume/GAJ-vol6.pdf> [2024 年 3 月 20 日アクセス].
- Niinaga, Yuto (2014) A Grammar of Yuwan, a Northern Ryukyuan Language. A thesis submitted for the degree of Doctor of Philosophy, The University of Tokyo.
- 西岡敏 (2002) 「沖縄首里方言の動詞「メンシェーン」の過去形」第 4 回「沖縄研究国際シンポジウム」実行委員会 (編) 『第 4 回「沖縄研究国際シンポジウム」世界に拓く沖縄研究』280-289. 沖縄: 第 4 回「沖縄研究国際シンポジウム」実行委員会.
- 小川晋史 (2015) 『琉球のことばの書き方—琉球諸語統一的表記法—』東京: くろしお出版.
- 長田須磨・須山名保子・藤井美佐子 (編) (1980) 『奄美方言分類辞典 下巻』東京: 笠間書院.
- 重野裕美 (2010) 「奄美諸島方言の敬語法—敬語形式の分布とその展開に着目して—」『国文学攷』208: 1-18.
- 重野裕美 (2011) 「奄美諸島方言敬語法の記述的研究」博士論文, 広島大学
- 重野裕美 (2013) 「鹿児島県瀬戸内町与路方言の敬語形式」『広島経済大学研究論集』36(3): 45-56.
- 重野裕美 (2017) 「北琉球奄美大島大和村今里方言の敬語法」『広島経済大学研究論集』40(3): 155-167.
- 重野裕美 (2018) 「北琉球奄美大島龍郷町浦方言の尊敬動詞について」『広島経済大学研究論集』41(3): 77-95.
- 重野裕美・白田理人 (2018) 「北琉球奄美大島笠利町佐仁方言の尊敬動詞について」『琉球の方言』42: 25-59.
- Van der Lubbe, Gijs (2016) 「琉球沖永良部語正名方言の記述文法研究」博士論文, 琉球大学.
- Van der Lubbe, Gijs (2021) The Past Form of Stative Verbs in South-Central Okinawan. In: Hae-Sung Jeon, Peter Sells, Zixi You, Sotaro Kita and Jaehoon Yeon (eds.) *Japanese/Korean Linguistics Volume 28*, 245-257. Stanford: CSLI Publications.